

南極の氷は「フクフク」音がした。



関工では、5月2日（月）開校記念日特別講話（講演会）が開催されました。講師には、同窓生を代表して2001年電子科を卒業した鈴木学さんが招かれました。鈴木さんは、(株)日立プラントコンストラクションに就職し、溶接を専攻して発電所の施設設備の設置及び維持管理等に従事しており、そんな中で54次越冬隊として1年間南極大陸の昭和基地で勤務なされました。

講話では、南極昭和基地での仕事について現地のビデオを紹介しながら、自然環境の厳しい基地での任務を紹介してくれました。ビデオでは、オーロラや皇帝ペンギン、基地内の生活の様子等、私たちが普段知ることのできない越冬隊の仕事振りを見ることができました。大変だった事では、それぞれの担当が任務を遂行することが大切であり、そのプレッシャーが一番大変だったことを話されました。

鈴木さんは、基地内の暖房設備の維持管理を担当し、故障の際は全員凍死する最悪の事態も想定して基地内の生活環境を整備していたそうです。「仕事は、チームで行うもので、誰かがサボれば事故が起きる。常に危機感を持ってベストを尽くすことが大切」という事を私達に教えてくれました。

また、電子科を卒業したけれど、専門分野を担当することなく、溶接が好きだったことから会社では溶接のチームに所属し、発電所内では色々な設備を作り上げて来たそうです。製品が出来ても設置して稼働させるのは現場の仕事、「作り上げる仕事にやりがいを感じている！」と話され講演を終わりました。講演後は、在校生からの質問に丁寧に答えていただきました。

今回の講演会の開催に際し、全面的にご支援いただきました関工同窓会に感謝いたします。

本当にありがとうございました。 m(_)m

～いま 関工がおもしろい～



白夜の映像を紹介する講師



南極の氷と越冬隊の防寒着を体感する元澤君



「大変だった事」が質問のキーワードでした。



自分が好きな仕事って、なんだべ～



本気です。一関工業

